

ノーベル平和賞雑感

1974年、佐藤栄作氏がノーベル平和賞を受賞しているが、「非核三原則」を提唱しただけで、具体的な行動や成果はなかった。

政治家が単なる概念を打ち出しただけでノーベル平和賞を受賞したという事実に対して、大きな違和感をおぼえた。しかも、この方が首相を務める国は、確かに世界でただひとつの「被爆国」ではあるが、アメリカの核の傘の下でアメリカ追従の政策をとり、2025 年現在NPT条約に賛同していない。政治家が概念を提唱しただけでノーベル平和賞を授与された（と私が感じた）事例は他にもいくつかあった。

そもそも、政治家は世界の平和を維持する働きをするのが責務であり、それを達成したところで「すべきことをした」だけのことではないのか。

極めて難易度の高い平和維持に向けた努力がされたのならば、再発がないことを見極めてから授与すべきではないのかと言いたくなる。

世界を見渡しても、「平和維持に貢献した」と評価できる政治家はそんなに数多くはないように感じる。紛争や戦争があり幾多の犠牲が生まれてくると、それを解決しようとする新たな動きが発生する。

そしてそれが功を奏したということになれば、ノーベル平和賞になる。ところが何年後かに場所を変えて同様の問題が起きるし、更に何年後かに同じ国同士でまた同様の問題を起こす。世界はその繰り返しをしているだけで、何の抑止力にもなってはいない。

いくつかの内紛や国家間の紛争の中には、根本解決して再発せぬ状況になっているものもあるが、同じことが繰り返されていると見えるものが多い。

近頃問題が発生している、ガザ地区の紛争などもほぼ同じ図式であると感じる。

そんな疑問を感じたことをきっかけとして、過去のノーベル平和賞受賞者を初回（1901年）に遡って調べ始めたのは2023年だった。ようやく半分ほどの調べがついた段階で、日本原水爆被害者団体協議会の2024年ノーベル平和賞受賞が報道された。

授賞式を終えて帰国したメンバーが石破首相を表敬訪問した映像がニュースで流された。

受賞報告終了後メンバーから、「我が国もNPT条約の批准を」と進言した時、首相は下から睨み付ける敵意をあらわにした表情だったのが印象的だった。

折から、アメリカの新大統領との会見で「日米同盟を更なる高みに持って行く」と宣言し、軍事力増強に注力している我が国。

日本原水爆被害者団体協議会の受賞は、「核廃絶に向けたメッセージ発信の地道な努力」への評価と読むべきか、それとも「核廃絶に向けた具体的な策を打ち出せない国家に対する、長年にわたる反政府運動」への評価なのか。国外から見た視点としてはどちらなのだろう。あらたな疑問が湧いてきてしまった。

以上

●参照した資料：ノーベル平和賞受賞者一覧 (Wikipedia) [ノーベル平和賞 - Wikipedia](#)

1901年の初回からの「受賞者」・「その国籍」・「受賞理由」がまとめられている情報は意外に少ない。この資料を元にして、それぞれの受賞者のプロフィールを調べて重ね合わせて見た。